

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	677 臨時河川等整備事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	03	河川費
基本 施策	20 美しい川の環境を維持する	目	03	準用河川改修対策費
		細目	632	準用河川改修事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	臨時河川等整備事業
担当部署	コード	190500	担当者 氏名	山本 昇
	名称	産業建設部建設1課	連絡先	43 - 2323 (内線) 236

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	河川近隣の住民	※対象件数
成果(どうする)	降雨時における浸水被害の解消が図れる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業 内容	社会資本整備総合交付金事業 準用河川里川河川改修事業 測量設計 L=267m 前川河川浚渫工事L=90m、怒川河川浚渫工事L=150m、ネカス川河川浚渫工事L=90m	
社会情勢 の変化等	局所的な集中豪雨の危険性が增大しているとともに、都市化の進展による流域の保水力は一層低下している。 河川改修による浸水被害の防止を図る必要がある。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	準用河川里川河川改修
2 建設面積 (延床面積)	延長 0.3km 計画流量 13.73m3
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
河川改修延長(工事)	m	目標			0	
		実績			0	
		目標				35
		実績				90

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
実施した箇所数	件	河川整備することにより、浸水被害箇所を軽減する。(予定箇所数/実施箇所数)	目標	3	3		
			実績	3	3	3	3
			目標				
			実績				

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	19,099	9,956	20,300	62,000
	県支出金	3,400	2,550	5,700	20,000
	地方債	8,600	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	7,099	7,408	14,800	42,000
	事業投入人件費(B)	0.5人 3,800	0.5人 3,800	0.5人 3,800	0.5人 3,800
フルコスト(A)+(B)		22,699	13,556	23,900	65,600

事務事業の評価(Check)

必要性	判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
	○	△	
○	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	個人の方だけでは対処し難い社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
○	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
○	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
○	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
○	洪水を安全に流下させる河川整備と、河川の流下能力を回復させ浸水被害を軽減させる浚渫工事を求める地域要望は大きく、引き続き市民の生命・財産を守るため、河川改修整備を進める必要がある。		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		
○	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	サービス水準や対象を見直す余地がある。		
○	当初設定した計画を	100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	
○	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
○	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	【事業名】 社会資本整備総合交付金事業 佐那具千歳線道路改良事業		
○	受益者負担を求めることができる事業である。		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。
	全体コストにおける負担構成は適正である。		
○	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		河川改修整備することにより、降雨時における浸水被害の解消と、生活環境の改善が図られる。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成25年度末までに準用河川里川河川改修を完了させる。
昨年度 の取組 状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 里川河川改修区間267mの測量・設計が完了した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	北山 太加視
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	洪水を安全に流下させる河川整備と、河川の流下能力を回復させ浸水被害を軽減させる浚渫工事を求める地域要望は大きく、引き続き市民の生命・財産を守るため、河川改修整備を進める必要がある。
現時点における課題、その他	多くの浚渫要望等が届けられるが、工事採択が遅れている。厳しい財政事情を考慮して、国の交付金を活用し、河川改修事業に取り組んでいく必要がある。
課題、その他に対する改善策	特定財源を確保して河川整備の費用対効果を上げ地域要望に応える。緊急性を判断した工事採択を行う。
(いつまでに、何を、どうする)	